

## 会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 3-27	第5回墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会		
開催日時	平成19年4月26日(木) 午前10時00分から 午前12時00分まで			
開催場所	墨田区役所8F 墨田区役所82会議室			
出席者数	委員11人 (小出治 青山侑 松川淳子 加藤仁美 篠崎道彦 岡本博 小菅崇行 岸成行 須賀武田中進 渡会順久)			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	2人
議 題	1. 報告事項 ① 平成19年度のスケジュールについて 2. 検討事項 ① 第4回改定検討委員会における意見と対応について ② 全体構想の内容確認について ③ 分野別構想の検討について 3. その他			
配付資料	1 平成19年度スケジュール(案) 2 第4回改定検討委員会における意見と対応について 3 全体構想たたき台 4 分野別構想(案)検討資料1(第4回提示資料からの変更点について) 5 分野別構想(案)検討資料2 6 第4回改定委員会議事録 7 第5回ワークショップのまとめ			
会議概要	1. 報告事項 ① 平成19年度のスケジュールについて ア 今年度の委員会はワークショップと合同の「ワークショップ成果発表会」を含めて7回の委員会を予定している。 イ 12月に素案策定、パブリックコメント実施後の2月に改定(案)をまとめ、3月の策定を目指したスケジュールとなっている。 2. 検討事項 ① 第4回改定検討委員会における意見と対応について ア 小中学生が好きな場所を尋ねたアンケート結果について再整理して提示することとなった。 ② 全体構想の内容確認について ア 拠点と都市軸の内容について、定義も含めてもう少し整理する必要があるとの指摘があった。 イ 将来都市像など計画の基本的な考え方として、地域単位のまちづくり、徒歩圏のまちづくりが前面に見て取れるような内容にする必要があるとの指摘があった。			

	<p>ウ 「下町」というイメージに関して、「すみだらしさ」を整理した上で、墨田区の良い特性として積極的に発信できる事項を「下町」らしさとして定義してはどうかという提案があった。</p> <p>③ 分野別構想の検討について</p> <p>ア 特に木造密集地域の防災性能の向上のため、耐震改修に対する積極的な支援やNPO等の半公共的な団体を活用した管理運営などの新しい施策の必要性が指摘された。</p> <p>イ 計画書の構成について、全体構想と分野別構想それぞれの視点の対比や本所と向島を分けた記述など革新的な提案ができるのではないかと指摘があった。</p> <p>ウ 温暖化対策をはじめとした地球環境問題への対応が方針としてきちんと見えるように表現する必要がある、天空率に関する記述内容を精査する必要があるといった指摘があった。</p> <p>3. その他</p> <p>① 今後の進め方について</p> <p>ア 今年度のWSは地域別6方針にあわせて6班編制での実施を考えている旨の報告があった。</p> <p>イ 今年度中の策定を目標としている景観基本計画と平行して、6月から8月には、押上駅・業平橋駅周辺地区の景観づくりの方針を先行して行うことを予定している旨の報告があった。</p>
所 管 課	都市計画課（内線 3904）

## 第5回 墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会 議事録

### 1. 報告事項

＜第5回区民ワークショップについて＞ 説明者：都市計画課 池田課長

(指摘なし)

### 2. 検討事項

＜第4回改定検討委員会における意見と対応について＞ 説明者：トデック 小林

**渡会委員** 小中学生アンケートのポイントを落とした地図がとても興味深い。その上で、このポイントがどんな所なのか、商店なのか道なのか寺社仏閣なのかといった整理があるとより分かりやすくなると思うので、是非お願いしたいと思います。

**事務局** 類型化ということではよろしいでしょうか。

**小出委員長** 典型的なものを取り出して紹介してもらう形でも良いと思います。

**松川委員** 今のご意見に賛成です。加えて、先ほど説明の中で省いた所もありませんでしたが、何を省いて何をプロットしたのかを凡例に示してあると良いと思います。(小中学生が好きな場所が)北部に多いというのは面白いですね。

**渡会委員** 生活感があるということでしょうか。

**青山委員** これは小中学生の意見ですが、私が大学生を連れてフィールドワークに行く先も北部では向島全域なのに対して、南部では江戸東京博物館と国技館とオリナスをはじめとした錦糸町一帯に限られます。東京都の視点では震災復興を通じて本所は模範的で歴史に残る都市づくりです。実際墨田区全体でも道路率20%、公園率20%という世界標準の、パリにもワシントンにもニューヨークにも遜色ない数値となっています。しかしアンケートを見ると、そういうインフラ整備ができていれば小中学生が良いと思う場所になるかと言うとそうではなかった。東京都が防災上問題があると評価した所の方が良いというのは非常に興味深い結果だと思います。ただ前向きに考えれば、南側に間違いなくポイントができるという意味で北斎館は良い場所を作るなどという捉え方もできるかも知れません。

**田中委員** 前回の委員会では、良質の住宅を安定して供給するための方策、特にアンコの部分の維持管理に関して、NPOやその他の半公共的な団体などと連携してまちづくりを進めるといった趣旨の発言があり、とても重要な意見だと感じていました。このまとめの中ではそのような内容があまり反映されていないような気がするのですが、何か理由があるのでしょうか。

**事務局** 少し整理をし過ぎたのかも知れません。ただし、実際に計画の案を検討する際にはいただいたご意見を1つずつ確認していますので、こちらの資料ではあっさりともまとめてしまっているかもしれませんが、資料4の方ではご指摘を踏まえた内容になっていると思います。

**小出委員長** 墨田らしさ、伝統的なまち、魅力的な住まい方といったものがこの地図に象徴されているように感じます。一方で、防災上の問題など実際にはいろいろと改善しなければならない点もあり、この2つを両立させるためにどうしていくかということが前回の議論だったかと思います。もう一步踏み込めば、住宅だけではなく、下町らしいまちの構造をどうやって継続できるかということにも繋がる内容ではないでしょうか。

**岡本委員** これまで墨田区では燃えないまちづくりに積極的に取り組んできて、本所地区を中心に大きな成果をあげていますが、一方では北部の方ではなかなか進んでいません。その原因の1つとして、燃えないまちづくりが建て替え、新築工事を主としているために、都市基盤の整っていない北部地域では思うように建て替えができず進まないということがあると思います。そういった中で、改修や改築によって防災的に前進させる減災という考え方が非常に重要で、そういったものを都市計画に積極的に取り込んでいくことが墨田の魅力を保ちながら都市計画を進める新しいキーワードになると考えられます。耐震改修、簡易改修など墨田区でも始まっていますが、お金がなくても自分たちの安全を守るように行政がきちんと支援できる仕組みを積極的に実施していく。これまでの都市計画では認められなかったものを地元にあった考えとして取り込んでいく。そういった方向性を打ち出して欲しいと思っています。

**小出委員長** 墨田らしさや伝統のほか多くの分野と密接に関係する重要な視点なので、精緻に検討しなければいけないと思います。

**岡本委員** 耐震の相談等でうかがった際に北部の地元の人に話を聞くのですが、家族は別のまちに出てしまって、高齢のご自身はそれほど広さも必要ないので、建て替える必要性がない。もちろん改修して耐震化したいのだが年金暮らしでそれもできないために建物がそのまま残ってしまったというケースがとて多くあります。あるいは、既に現状で既存不適格あるいは違反建築になってしまっているので各種の助成が受けづらいというケースもあると思います。こうした行政が手をさしのべられない場所としてずっと残ってきたものが、子供達にとって魅力的なまちだったというのは非常に示唆に富んでいるのではないのでしょうか。

**小出委員長** 大人の盛り場というのと反対の結果になるでしょうし色々な視点があると思います。非常にインパクトが強い内容なので、この結果を材料とする場合には何を示唆しているのかももう少し細かい分析が必要でしょう。ワークショップの中では下町らしさと絡めて景観に関する指摘などが出ているのでしょうか。

**事務局** 昨年度のワークショップでは直接景観について尋ねるという進め方はしていませんが、地域の優れた点を検討する中でいくつか景観の話が出ています。例えば、京島・向島では長屋や路地、東墨田の方では旧中川の河川敷の空間、北側では荒川の河川敷、南部でも内部河川をなんとか活かしていけないかという意見がありました。

**渡会委員** 今年度、景観基本計画の策定を予定しています。都市マスの進行に合わせて少し検討を急がせて一緒にやっていければと思っています。

**小出委員長** 景観をどう捉えるかというのは非常に重要なポイントなので、検討の途中段階やまとめに先立つ考え方も良いので是非報告していただきたいと思います。

**渡会委員** それでは景観基本方針の様なものを次回か次々回くらいにご報告させていただきます。

#### <全体構想の内容確認について> 説明者：トデック 小林

**岸委員** 4ページの「将来の都市構造」の中に生活拠点、広域拠点、広域総合拠点、スポーツレクリエーション拠点という4種がありますが、はじめの3つの拠点とスポーツレクリエーション拠点というのは少し性格が違うと思うので、このように並列に表記して良いのかは疑問に思います。もう1点は各拠点の説明はそれぞれ書いてあるのですが、その相互の関係が書かれていないので、拠点に関する項目の冒頭に説明があると分かりやすくなるのではないのでしょうか。それから、都市軸の内容が分かりづらいのも気になります。将来都市構造図を見ると、単に拠点を拠点をつないだものが都市軸というふうに見えるのですが、例えば立花商店街や地藏通り商店街などの商店街も都市軸として捉えることができると思います。そういうものところで言う都市軸との関係が見えにくくなっているのではないのでしょうか。

**事務局** 現行の都市マスでは広域総合拠点から順番に並べた構成になっているものを、逆転して小さい方から並べていっているため、広域総合拠点の次にスポーツレクリエーション拠点が来て余計に違和感があるのかも知れません。確かに他の拠点は異質の内容ではあると思います。

**渡会委員** 前回の都市マス策定時には、文花地区に陸上競技場を作ろうという計画案があったため、既存のテニスコートとあわせてここをスポーツ・レクリエーション拠点という位置づけにしています。陸上競技場の計画が見えない中でこの部分をスポーツ・レクリエーション拠点をしておくのは拠点の定義の上でも問題が出てくる可能性があります。企画課あたりと今後の方針について一度話し合った方が良いのではないのでしょうか。それから先ほどの都市軸に関する質問ですが、広域拠点と広域拠点を結ぶ連携軸をつくることによって広域拠点相互の緊密な連携と都市軸においても商工業の活性化を図ろうというイメージです。今回の資料には都市軸の定義、拠点の定義が書かれていませんが、今後計画をとりまとめる中できちんと書き込まれることになると思います。

**岡本委員** 商店街がもう少しピックアップされてもいいのではないかと思います。昔は地元の商店街が魅力的だったので遠くまで行く必要はありませんでしたが、今地元の方どこに行くのかと聞くと町屋とか人形町と言います。高齢者の場合にはそこまで行けないので自宅に引きこもることが多くなってしまいます。近場に賑やかで元気な商店街があれば、地域全体の活性化はなると思うので、地域の中に明確な拠点が無いというのは寂しいことではないのでしょうか。

**小出委員長** 生活拠点とその上の拠点との関係も分かりにくいように思います。生活拠点などは実際にある地域の商店街の実態と合わせてやるというのは良いかも知れません。

**岡本委員** 地元に住んでいるとよく昔を思い出すのですが、家の前やどこへ行っても必ずご老人が椅子を出して子供達を見守っていたり、友達同士囲碁を打ったりしている姿がありました。まちが整備されたことによって何が良くなって何が失われたか。老人達がまちに出て見ていてくれた都市の安全性といったものがなくなっ

てしまいましたが、それをインフラでカバーできるかといえば結局できなかったのではないのでしょうか。特に高齢化が進んでいる墨田では、人のいないうすら寒いまちになってしまわないよう、これからのまちづくりではこういった部分を考え直さないといけないのではないかと思います。

**青山委員** 例えばアメリカの場合には、土地利用計画や都市施設、人口、そういった総量としての希望を指標に成長を管理していくという考え方から、人によって定義は様々ですが、景観や環境、福祉や住民参画といった要素を総合的に考えて賢い成長を目指そうというスマートグロースへと都市計画の方向性が変わっています。ヨーロッパでは、EU加盟 21 カ国が土地利用計画＝ランドユースについてのプランニングから空間計画＝スペーシャルプランニングに変えようということを 10 年もかけて決めています。このスペーシャルプランニングの考え方も、土地利用だけでなく福祉や教育、治安といったものをまちの全てを総合的に捉えないと議論できないという考え方が背景にあったと思います。日本でもやはり「都市計画」から「まちづくり」に、言葉は違うけれどもこの二十年くらいの全く同じ時期に、都市計画に対する考え方が変わってきています。それは見方を変えると、従来のように墨田区全体、東京都の中の墨田区といった大きな単位で考えることも必要ですが、一方では徒歩圏、コミュニティ単位のまちづくりを考え、運営していくということが要請されているということでもあります。基本構想で掲げられているガバナンスという考え方も、墨田区全体のことであるし、地域単位でまちづくりを決める、考える、提案するというものであるはずで、今回墨田区が都市マスを新たに定めるとすれば、地域単位での運営というのも重視していく二十一世紀型のまちづくりというものをある程度明快に出した方が良いのではないかと思います。先ほど事務局から読み上げてもらった私の意見「ある程度歩ける、座れるまちづくり、徒歩圏のまちづくりが大切だから歩行者空間の所はきちんと書いた方が良い。歩行者と自転車を一緒にしてしまうと意味合いが変わってしまう」というのはそのような背景から来ています。前回、今回と話のあった「地域におけるNPO等の役割ということをきちんと書いた方がいいのではないか」ということも同様だと思います。それから、歩ける、座れる、まちづくりが大切なもう一つの理由は回遊性です。回遊性と一言で言っても、観光バスで墨田の中を回遊していただいても、あるいは自動車でも回遊していただいても全く意味がありません。墨田区の道路率を考えるとそういうことも可能なのかも知れませんが、墨田の中で考えたらやはり、墨田に来て歩いてお金を落とさせていただく。やはりまちが栄えるという意味では、徒歩で歩いていただく。そういう観点だと思います。そういう意味でも今回の都市マスでは、徒歩圏だとか、歩けるだとか、コミュニティ、ガバナンスといったまちづくりの考え方を明快に打ち出した方が良いのではないかと思います。

**加藤委員** この計画が今までのことを整理するきっかけになるのではないかと思います。1つは、先ほどスポーツ・レクリエーション拠点の話がありましたが、陸上競技場の計画云々というものを今回のように位置づけるのか、見直すのかという点です。そういうことをきちんと行わないで、なぜ拠点なのかが分からないままに、この図だけをもとに計画が動いていってしまっただけでは問題だと思います。それから土地利用に関する説明の中で、今まで1つにまとめられていた住工共存地区を南北に分けた、これはとても良いと思います。今回はさらにこれに習って、住宅の方針や道路など同様に南部と北部で考え方が異なるものも分けて書いてみてはどうかというものがもう1点です。目次構成の話になってしまうかも知れないのですが、先ほどの小中学生の好きな場所の結果と重ね合わせてそんなことを考えていました。

**田中委員** 都市像の2つ目に「下町の生活を大切にするとあります。他にも下町という言葉がたくさん出てくるのですが、今までのような下町概念ではちょっと難しいんじゃないかと思っています。我々の下町像というのは自営業者がいて、住商工が混在していて、職住近接で、下町の義理人情、連帯感がある、そういう全体像として捉えていたのですが、最近は店舗が減って商店街が衰退している、工場も減っているというのが厳然たる事実です。職住近接の方もマンションが増えてきて割合が少なくなっています。これから二十年はおそらくもっとそういう傾向が進んでいくことを考えると、下町の一番大切な部分、私が一番大事だと思うのは連帯感やコミュニティ、下町の地縁ですが、そういったものが大事なんだということをもっと強調した書き方をした方が良いのではないかと思います。従来の下町像でずっときているのでちょっと違和感を感じるのですが、実際にはだいぶ変わっていますよね。

**渡会委員** それに関連して、現行の都市計画マスタープランの前のまちづくり方針をつくる際には「下町というのは山の手から見て下町なのであって、下町の間が下町と言うべきじゃない」という議論があり、「川の手」という言葉を一時期まちづくり方針で使っています。現行の都市マスでも下町という表現はほとんど使っていないので、今回の都市マスで下町という表現を大上段に構えて使うのか使わないのかという点は一度議論していただかないといけないと思います。

**小出委員長** 結局、墨田らしさというのが何かということに繋がってくる問題だと思います。墨田らしさのひとつの要素として下町らしさというものがある訳なので、一度墨田らしさをマトリクスか何かで整理をして、その評価をする必要があるのではないのでしょうか。何かと比べて「こうではない」と考えていくのではなく、整理された墨田らしさ、下町らしさを取り出して評価してみて、そこに肯定的な要素があれば下町という言葉を使う。色々なことを考える人がいるので、これまでの変化やフィジカルな要素、文化的な要素など様々な定義の関係を整理する中で、この部分を下町とするという発信をするくらいでないと行けないと思います。

**事務局** 押上・業平橋駅周辺地区のランドデザインの中では「下町文化創成拠点」という言葉を使っていま

す。また、景観基本計画の策定を考える上でも、北部の景観を語る時にはなりわいや路地といった要素を避けて通ることはできないと思います。

**渡会委員** 下町を前面に押し出していく方が良いという面もあるかも知れません。

**小出委員長** ある意味での下町らしさというのは当然あると思うのですが、南部の方は基盤整備等の面で違うといった時に切り分け必要になるかも知れないという問題があります。いずれにせよ、墨田らしさというのは重要なキーワードなので、世田谷とは違うといった向こうを基準にした受け身のものではなく、何を誇りにしていくかということを少し検討してみてください。

**青山委員** 基本構想の検討の中でも「下町」について議論しましたが、やはり賛否両論ありました。最終的に下町を前面に押し出すのはやめて水と歴史の方になった経緯があります。東京全体で考えてみると、下町を1区と言って選ばれるのは台東区になるのではないのでしょうか。下町という言葉の意味するものはどちらかと言えば盛り場的な意味合いが強く、庶民的な生活臭のあるまちとは少し違うような気がします。もちろん英語のダウントウンとは違います。どうしても「下町すみだ」といった時に決め手に欠けるような印象があります。区民の間でもおそらく議論は分かれると思います。

**渡会委員** 国際観光都市を目指しているので、下町を英語表記したときにダウントウンになりはしないか。外国人が持つダウントウンのイメージと我々の思っている下町は違う。その辺りも心配です。

**青山委員** それから、下町というどうしても庶民のまちを想像します。浅草は間違いなく庶民の盛り場ですが、墨田区は江戸時代は大名の屋敷があり、江戸・明治初期には文化人が大勢住んでいたところなので、下町という台東区にはピッタリだけれども墨田区は違うという指摘も出てくるかも知れません。

**加藤委員** 景観計画との関係が非常に深いと思っています。空間的には何が下町らしいのか、それから先ほどの子供達が良いと言っている空間は何なのかということ、これらのキーワードを整理していくと少しイメージがつかめてくるのではないのでしょうか。

**小出委員長** 路地や古い住宅といったキーワードが出てくると、それをどうしていくのかという話が次に出てきます。2項道路が良いかという話にもなってしまうので、そういった単語まで入れるのかという問題はあるかも知れません。

**加藤委員** 書き込むかどうかという問題は別にしても、一度出しておくことは必要ではないのでしょうか。

**事務局** 下町の定義をどのようにしていくかということは別途作業させていただきたいと思います。また、下町という言葉の善し悪しは別にしても、ご意見のあったコミュニティの問題等は、先ほどの21世紀型の新しい都市マスの打ち出し方というお話しとリンクさせて考えていかなければならないと思っています。住宅の形態など我々が想像するかつての下町を支えてきたものが変化してきている中で、大切にしなければならないコミュニティというものが醸成されていくような都市構造・生活環境を都市計画というハードの側面からどうやって支えることができるのかということを書き込んでいくことが必要ということだと受け止めています。現行の都市マスはどちらかという全体構想から考えていって、それを地域に分割したものを地域別構想としてまとめているのですが、ご意見のあった都市構造や地域環境をもう少しブレークダウンするための試みとして、地域から積み上げていく都市マスづくり＝ワークショップを現在進めています。今後地域別構想の第2弾のワークショップに入っていきますので、委員会での全体的な議論の内容を意識しながら、検討を進めていきたいと思っています。

**田中委員** 地球温暖化というのは大きな問題があります。2月に京都で開催された国際シンポジウムに出席してきたのですが、世界各国が危機感を持ってこの問題に取り組んでいます。今、墨田区でも地球温暖化防止計画というものを事業所や国の方も含めて検討し始めているのですが、この計画も、地球温暖化防止という大きな命題が都市計画にどのような制約を与えるのかという視点を持って計画をつくっていく必要があるのではないのでしょうか。

**事務局** 国が策定している国土形成計画の中では、これからの人口減少時代の中で出てくるであろう都市的な余裕空間、空き家や土地等を活用して、環境負荷の少ない都市構造を再構築しなければならないということが素案の中で明確に打ち出されています。今後は首都圏整備計画の中でもそういった考え方が位置付けられると思いますし、個別計画もそのような考え方を受けて策定していくことになるだろうと思います。ご指摘のあった地球温暖化の問題についても、きちんと考慮して内容を付加していきたいと思っています。

**田中委員** 今回の資料の中では利便性や快適性というものが取り上げられていますが、一方においてはやはり安全性は必要ですし、こういった環境志向というものもこれからは重要になってくると思います。その辺りのバランスをきちんと取っていく必要があるのではないのでしょうか。

**事務局** 都市像3の水と緑という中でそのようなことを扱っています。なかなか緑空間が生み出せない中でどうやってそういうものを増やしていくか、環境負荷の面から見るともう少し違う書き方になるかも知れません。

**田中委員** 都市計画がそういう視点につながるということを読んでいる人はなかなか分からないので、万遍なく書いてあるというのも良いが、問題意識がもっと明確に分かるようにしてほしいと思います。

**岡本委員** 水と緑と言ったときに、今の都市マスのイメージは非常に整備された緑だと思うのですが、緑を整備したけれどもメンテナンスにすごくお金がかかるとか、結果的に環境負荷をあげているというようなことにならないような計画が必要と言うことではないかと思います。ちょっと話は戻るのですが、下町と言ったときに都市計画、都市像としての下町だけでなく、下町と呼ばれる物をつくってきた人たちが高齢化して、それを継ぐ人たちがいなくなった。そこに墨田区の大きな問題があります。ですから、都市像を基本にその下町をつくってきた人たちを追いかけてもらわないと今後の進むべき道が見えてこないのではないかと思います。

**事務局** 例えば「マンション問題」ということを地元の方もおっしゃることがあると思います。先ほど家族が別のまちに出て高齢者だけで住んでいるケースが多いという話もありましたが、次を継ぐ方々が地域に戻りやすくするための受け皿というのは、そのマンションが機能している、または下町の密集の再生産と言われるようなミニ開発が受け皿になっている、という側面があります。つまり、ある程度の価格に抑えられないと子供世代が戻って来られないという現実がある訳です。ですから世代交代ということを考えると、この課題を100%否定するのではなくて、ある程度受け入れながらどのように誘導していくか、ということを出し出す必要があると思っています。ただ単に「密集の再生産だからミニ開発は駄目です」と言うのではなく、そのあたりのルールづくり、ガイドづくりをきちんとやる以外に解決方法というのは見出せないのではないかと考えているところです。

#### <分野別構想の検討について> 説明者：トデック 小林

**岡本委員** 防災に関する分野の方針の中で「他国からの武力攻撃」とありますが、この表現は適切なものでしょうか。

**事務局** 表現についてはまだ調整中の段階です。

**岸委員** 全体構想に対して分野別構想をどういう風に表現するのかということなのですが、全体構想では都市施設などそれぞれの方針を縦割りに表現したものになっています。それに対して分野別構想ではこれを横割りにした方針を述べるという構成になっていると良いと思います。先ほど青山先生がおっしゃったように、一方では地図を上から眺めた全体構想があって、分野別構想の方は地面に近いところから見た、墨田区の現状に沿った方向でまとめる。全体的には筋は通っているが、視点を変えたまとめ方ができると良いのではないのでしょうか。また、向島地区と本所地区で分けたまとめというのも良いと思います。項目によっては分けて考えた方が分かりやすいものもあるので、無理に1つにまとめる必要はないと思います。向島と本所ほど性格の違うものを1つの報告書でまとめるのは東京都でも墨田区くらいのものだと考えると、この委員会でまとめるマスタープランというのは非常に画期的なものになる可能性もあるのではないのでしょうか。このようなことがうまく対比的に表現できてまとめる事ができれば21世紀型の報告書ができるのではないかと思います。

**田中委員** 6ページの定住に関する分野の方針の中で書かれている人口は住民基本台帳の数字だと思うのですが、外国人の方も含めて区民なので、やはり人口といった時には外国人登録も加えた数字を記載するべきではないでしょうか。下に外国人の居住についてふれている項目がありますが、はじめに全体を述べてから個別の項目を取り上げるのは良くても、住基と外国人登録を最初から分けてしまうのは外国人に対する認識が問われることにもつながりかねないと思います。

**篠崎委員** 同じ6ページに天空率の使用が景観を阻害しているという記述があります。他の人口や集合住宅に関する記述は具体的な数字が書き込まれていますが、天空率に関しても区内の状況をきちんと把握しているのでしょうか。それから、基準法が改正されたことで住環境に懸念が出てきているという書き方をしていますが、行政計画としてこのような書き方をしてしまっても良いのでしょうか。もしするのであれば実態をきちんと踏まえた上で書かなければなりませんし、細かく言えば、天空率によって高い細い建物ができたからといって必ずしも支障があるかといえば、特に隣接地ではそうとは限らないので、書き方を注意した方が良いと思います。

**事務局** 当然ある程度の実態を把握した上で書き込みをしていくことになると思いますが、かなり増えているのは事実です。確かに細くなれば日陰について有利になる面もあるので、その辺りは注意したいと思います。

**篠崎委員** 基準法の改正自体は開放性や明るさを守るためのものであって、景観については高さを抑えるなど別途考えていくのが本旨なので、基準法が悪いから景観が悪くなるという書き方はしない方が良いと思います。

**加藤委員** 同じく住環境に関して、前回の委員会で議論した住宅の改修や改善を進めながら住環境を更新して

いくというような考え方が表現されていないのではないのでしょうか。

**小出委員長** (3)の2)に少しだけ書かれています。全体から見ると新しくつくることばかりが取り上げられているような印象を受けてしまいます。

**渡会委員** 基本的な考え方の中に入れておいた方がいいと思います。北部のまちづくりについて、個人的には一戸建て政策をやってはどうかと思うところがあります。民間市場に任せておくとみんなマンションになってしまうので、下町を今後も存続するためには、一戸建ての人は一戸建てに建て替えられるような政策誘導というのにも必要になってくるのではないのでしょうか。あるいはそこまで書けないのであれば、修復や修繕、改善という形で書いてもらえるといいかと思えます。

**松川委員** 7ページの2の2項目目がもう少しきちんと書かれて、耐震化とか防火性の向上や改修を支援する、そういうシステムということが見えてくれば良いのではないのでしょうか。その前のタイトルから想像できた方が良くも知れません。

**渡会委員** 耐震化という事はしっかりと書いておいて欲しいと思います。

**岡本委員** おそらく北部地域の人が一番元気出るきっかけになるのが耐震化だと思います。皆さんある種の諦めから、もう直さないでここで天寿を全うするんだと割り切っているところがあり、それが外に出ないということにもつながっていると思います。これを耐震化していつてあげることで、夜も安心して眠れるという意識が出れば明るくなりますから、こういったことがまちづくりを考える上でとても大きなことではないかと思えます。墨田区だけでも直さなければいけない木造住宅がまだ2万棟ある訳ですから、それを早急に対応していかないとタワーどころではない、というのが北部の方の意見だと思います。そういう内容があると入りやすいと思えます。

**事務局** その辺りは不燃化の見直しの報告も踏まえてもう一度検討させていただきたいと思えます。

**田中委員** 防災に関する分野の方針の中で「防災街づくりの蓄積の上に立った協働の取り組み」とあります。これについては全く異存はないのですが、これを具体化した5ページの「震災復興の取り組みの推進」の中に抜けているものがあります。震災復興計画の重要な概念として、クリアランスではなく、地域の皆さんと協働で復興していこうという「地域協働復興」を掲げているので、これを是非入れておいて下さい。

**事務局** そろそろ時間なのでまた次回分野別について意見を伺う時間をとりますのでよろしくお願ひします。

### 3. その他

**事務局** 昨年度4班編成で検討を進めてきたワークショップですが、これから地域別の方針を6地域に分けて整理していこうと考えているのにあわせて、6班編成が可能なようにメンバーの追加登録を進めています。既に8人から9人のメンバーが新たに加わっており、現在も募っているところです。状況については追って報告させていただきたいと思えます。それから景観について先ほど少しお話が出ましたけれども、景観基本計画の策定も今年度中の策定を目標に進めています。基本計画の策定と平行して、6月から8月には押上駅・業平橋駅周辺地区について、ランドデザインの景観版的な考え方で先行して策定を行います。こちらについても形が見えてきましたらご報告をさせていただきたいと思えます。報告事項は以上です。次回の委員会は5月の開催を予定していますが、委員の皆様から提出していただいた日程調整票をもとに調整しまして、日付が決まりましたらご連絡させていただきます。よろしくお願ひいたします。

**小出委員長** それでは以上でよろしいでしょうか。

**渡会委員** 前回の都市計画マスタープランでは、地区計画の適用方針、主要推進プロジェクトといったものをつくってました。今回もそのような形にするのかどうかというのが1点、それからタワー関連では、今後墨田区は78億の周辺施設整備を行いますので、その施設整備の概要くらいは都市マスの中に載せた方が良いのではないかと思っています。それから、全体構想と分野別構想の文章をざっと見てみると、もっとインパクトのあるものと思っていたタワーのまちづくりがさらっと書かれているような印象があります。これは印象だけにとどめておきます。

**事務局** それから住宅マスタープランの改訂版ができあがりましたので、帰りにお持ち下さい。

**小出委員長** それでは他になければ終了させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。

以上